

ひとのちから

CLOSE * UP



荒尾市観光協会事務局長

山口信人さん

やまぐち・のぶと 昭和35年生まれ、長崎県波佐見町出身、向陽台在住。6月1日、荒尾市観光協会事務局長兼観光プロデューサーに就任。特技は、添乗員時代の経験を生かしてテレビドラマのロケ地を言い当てること(国内限定)。

「荒尾には、『まるごと荒尾一日ツアー』が組めるような魅力がありますよ」

荒尾市観光協会事務局兼観光プロデューサーに就任した山口信人さんは、笑顔でさらりと語りました。しかしその目は真剣。観光のプロが今、荒尾を冷静に分析し、熱く売り出そうとしています。

山口さんは、前・長崎県雲仙市観光協議会事務局長。2期を務めて任期満了の後、荒尾市観光協会の事務局長に応募。採用と同時に、荒尾市に転入しました。

波佐見焼で知られる長崎県波佐見町出身の山口さんは、以前は焼物の受発注などを管理する仕事をしていました。若い頃は地元工業組合を通じて、まちづくりの活動に携わったこともあるそうです。

旅行業に転職した後は、添乗員として5年半勤務しました。年に150日〜200日、日本中を旅したそうです。

「いろんなまちに行くたびに、地形や地理、風景と併せて、そのまちの産業や歴史、

特色を考えていましたね」

まちの特徴や良さをいろんな角度から分析する視点は、かつてのまちづくり活動から得たもので、添乗員としてガイドをするときにも、とても役立ったそうです。

この経験を雲仙市でも生かしてきた山口さんは、こう語りました。

「観光客に来てもらうためには、荒尾独自のコンテンツを地元の人たちと一緒に磨き、訪れたくなるような環境を整えることです」

荒尾の持つ資源の個性を磨き、テーマを持たせてつなぐことで、荒尾でなければできない観光、すなわち、荒尾に必要のある観光を提案することができるとのこと。

徹底した現場主義が身上だという山口さんは、今、荒尾のまちを毎日体感しています。

「自分で体験した荒尾の良さを、市民の皆さんと一緒に広く発信していきたいですね」
荒尾のまちに多くの人が集う夢のプロデューサーは、もう始まっています。